

令和元年度全国高校総体バスケットボール競技静岡県予選大会展望

(一社) 静岡県バスケットボール協会広報委員長
中島 洋己 (静岡県立科学技術高校教諭)

令和元年度全国高校総体(インターハイ)バスケットボール競技静岡県予選は5月25日に藤枝順心高校体育館他で開幕する。男女とも各地区大会を勝ち抜いた32校が出場し、26日午前中に行われるブロック決勝を制した4校による決勝リーグが同日午後から始まり、6月2日、8日には袋井市・エコパアリーナで残りのリーグ戦が行われ、優勝校のみが7月27日から鹿児島県薩摩川内市・サンアリーナせんだい他で開催される**全国高校総体**へ、上位3校が6月22日、23日にエコパアリーナでの地元開催となる**東海高校総体**への出場権を獲得する。今年からインターハイの出場枠が男女とも1枠減って「1校のみ」となり、今までにない過酷な争いとなることが予想される。またあわせて、各ブロック総体優勝チームの所属都道府県(関東は優勝・準優勝)に年末の**ウィンターカップ追加出場枠**が与えられることになり、東海総体優勝チームを擁する県もウィンター出場権が「増枠」となる。そのためにも各県はより強いチームを東海総体に送り込み、ウィンターカップの追加出場権を獲得する使命も担っていると言えるだろう。

2月に草薙で行われた東海新人大会では藤枝明誠男子がウィンター準優勝校・中部大第一を破り6年ぶりの東海制覇、浜松開誠館女子はウィンター全国ワン・ツアの岐阜女子、桜花学園に続く3位、改めて男女ともに静岡県高校バスケのレベルの高さを証明した。今大会は全国総体出場がかかる大きな大会、例年以上に狭き門、そして「令和初」の全国切符獲得を目指す選手たちの熱い戦いに注目したい。また今年度もこの大会が**全日本選手権(オールジャパン)**県予選の出場選考も兼ねており、上位2チームが8月末に静岡県高校バスケの聖地・**静岡県武道館**で行われる**県代表決定トーナメント大会**の出場権を獲得する。女子は2年連続で浜松開誠館女子が大学生、社会人を破り優勝。この予選は**2020年東京オリンピック**でバスケットボールのメイン会場となる**さいたまスーパーアリーナ**で正月に行われる大会につながるので、選手・指導者共にモチベーションが高まっていることに違いない。

今大会も昨年から行われている「5位決定トーナメント」を継続して実施する。昨年初めて実施されて決勝リーグに勝るとも劣らない白熱した戦いが繰り広げられた。その結果もウィンターカップ県予選シード順の参考資料となるだけにこちらも昨年以上に熾烈な戦いが予想される。

【男子】

やはり優勝候補筆頭は1月の県新人、2月の東海新人を圧倒的な強さで制した**藤枝明誠**。これまでこの展望では藤枝明誠と言えばマリ人留学生たちを中心とした「高さ」を真っ先に挙げていたが、その高さもさることながら今年のチームは外まわりの選手たちも計り知れないポテンシャルを持つ選手が多い。その筆頭となるのが、昨年の福井国体でも活躍、県協会優秀選手にも選ばれた**菊池広人**。鋭いドライブでゴール下にトップスピードでまわりこむプ

レーススタイルで東海新人決勝ではチーム最多の27得点を稼ぎだした。相棒の岩下にマークが集中する中で相手ディフェンスをかいくぐり得点を重ねていくプレーは相手にとってまさに脅威。ディフェンスでは必要以上にプレッシャーをかけ相手にミスを誘発させてチャンスを呼び込む献身的なプレーが目につく。本来の司令塔としての役割だけでなく、ゲームコントロールをも行うそのプレースタイルはまさにチームの大黒柱である。中部総体決勝・静岡学園戦でも32得点、ライバル相手に勝利を呼び寄せた。ダブルエースの岩下恵達は新人戦からチームに加わった新戦力。試合中コート縦横無尽に走り回り、飛び込みのリバウンドや躊躇せず一気呵成に放たれるシュートが持ち味。またルーズボールなどの球際にも粘り強いプレーを見せる。さらに東海新人準決勝・美濃加茂戦の第4Qで見せた天下の宝刀・ステップバックシュートも絶品。この2人を中心としたアウトサイドと有機的にかみ合って藤枝明誠をここまでの上げてきたのが自慢のインサイド。オマール・ディディアン・チュヌは恵まれた体格を生かしながらピックアンドロールを多用、器用さが目立つようになってきた。また巧みなスクリーンプレーで味方のシュートチャンスを演出、リバウンドでも体を張ってチームに貢献できるようになった。徐々に出場機会も増え自分のプレーに自信が出てきたようにも思える。オマールとプレイングタイムをシェアするカミソコ・オマールは類まれなジャンプ力を生かしたリバウンド支配と躍動感あふれるスピードが魅力。チームが得意とするリバウンドからのブレイク攻撃の起点となっている。2部トリオの重鎮・セコウ・ドゥクレは昨年のウィンター県予選以来実践から遠ざかっている。体調が万全でコートに戻ってくればチームにとってこれほど頼もしいことはない。さらには4月にU-18日本代表候補に選出されて強化合宿にも参加した195cm・川越大輔も徐々にチャンスを掴みつつあり、インサイドは全国でもトップレベルにあるといえる。この内外のつなぎの役割を担うのは中谷陸人。派手さはないが堅実なプレーが持ち味でここぞという時にミドルや3Pを効果的に決める勝負強さは今のチームになくしてはならない存在である。その他にも3Pシューター浜本健、県新人決勝リーグすべてでスタメン出場した朝比航士郎、東海新人にも出場した押金紘輔、藤澤晴琉、石橋永遠、高野敢太などが控えにおり、戦力も充実している。インサイドとアウトサイドが東海新人の時のように機能し、自慢のピックアンドロールを生かした攻撃が随所に炸裂すれば2年連続のインハイ出場そして5年ぶりの県総体優勝はもちろん、東海総体も制し、6年前に大分インターハイで準優勝してウィンター出場枠を静岡県に「もう1枠」もたらしてくれた再現が見られる可能性も十分にある。

藤枝明誠の独走を許すまいと猛追するのが前回大会覇者の飛龍と中部総体決勝で藤枝明誠と死闘を繰り広げた静岡学園、そして西部総体を制した浜松開誠館であろう。

飛龍は平成29年、30年と2年連続で県高校三冠を達成してきたが、今年の県新人で藤枝明誠に惜敗、2位に甘んじた。続く東海新人では準決勝で愛知王者・中部大第一に敗れたものの、三重王者・四日市工業、岐阜王者・美濃加茂に快勝、東海3位を勝ち取った。3連覇を目指す今大会は藤枝明誠への雪辱を期して臨むであろう。チームの要は、インサイドに構える中国人留学生リュウ・ヤハオ。リバウンドやローポストでのジャンプシュートだけで

なく、時に鋭いドライブも見せるようになった。また最上級生となり自覚も芽生え、インハイやウィンター、国体などの全国大会で得た経験値も十分、キャリアという点ではチーム随一である。同じく3年生では勝負所で威勢よく放たれる3Pが魅力の**色山輝**、抜群のリーダーシップでチームの精神的支柱となっている**高須昂也**、ガードとして見事開花した**松井翔**などがチームを支える。下級生に目を移すと、すでにチームの中心的な役割を任されている**保坂晃毅**が光る。U-16日本代表候補として合宿にも参加し、日の丸を背負う重圧を感じながらも貪欲に技術習得に努めた。アグレッシブなドライブが持ち味で、スピードあふれるプレーも魅力。インハイ、ウィンターと全国の檜舞台を経験し、場数を踏んだ分ますますプレーに味が出てきた。以前見られたマッチアップする大型選手への寄りの甘さも東海新人を見る限り見事修正されており、今大会でもますますの成長が期待される選手。U-18日本代表候補に選ばれた経験を持つ**古大内雄梨**は怪我のため県新人決勝リーグには出場できなかったが東海新人で見事戦線復帰、四日市工業戦では途中出場にもかかわらず鋭いドライブや3Pが冴え渡り14得点を記録して復活を印象づけた。他にもリバウンドに自分の境地を見出しプレーが安定してきた**三橋翔**、長身187cm、東海新人全試合にスタメン出場を果たし得点を重ねた**鳥見勇敢**、県新人・東海新人でタフショットをことごとく決め一躍脚光を浴びた**遠藤歩夢**など藤枝明誠と互角に渡り合えるだけの戦力は十分持っている。決勝リーグで待ち構える強豪との戦いを制し、3年連続17回目のインハイ出場を勝ち取りたい。

静岡学園は県新人3位、そして10年前まで学校の体育館あり、先輩たちの汗が染みこんだ場所に新たに建った草薙このはなアリーナで行われた東海新人ではウィンター3位の桜丘に快勝、続く美濃加茂戦は敗れたものの最後の最後まで1点を争う好ゲームを繰り広げた。大黒柱は言わずもがな、「静岡県バス界の至宝」205cm・**市川真人**。U-22日本代表候補にも選れ、現役高校生では唯一、もちろん30名中最年少での選出であった。静岡県だけではなく「日本期待の和製ビッグマン」、色々な経験を積んで持ち味のインサイドプレーだけでなく、器用なフックシュートや迫力あるドライブ、アウトレットパスを受けての3Pも難なく決めるオールラウンダーに見事成長した。県外相手の公式戦初陣となった東海新人では、リトアニア、セネガル、ナイジェリア出身の留学生と堂々マッチアップ、リバウンド争いに互角以上の働きを見せた。課題であった重心の高さも膝を使って腰の位置を低くして対応、ゴール下の激しい戦いで押されてぶれる場面が見られなくなった。中部総体でも藤枝明誠の留学生と互角以上の攻防を見せ、県総体で予想される再戦が今から待ち遠しい。**永井涼也**は高校になって急成長した選手で市川と共に今やチームを支える屋台骨である。強靱なフィジカルを誇り、ディフェンスが待ち構えるゴール下に果敢にカットイン、丸太のような筋肉で固められた腕から繰り出されるレイアップは圧巻。また数多くのシューターを抱えるのも静岡学園の特徴である。3年生シューター・**柴田祐希**は人並外れたポテンシャルを持ちながら昨年まで出場機会に十分恵まれなかったが今年の新人戦からレギュラーに定着、他のチームにはなかなかいない191cmの長身シューターである。元来センタープレーヤーではあるが、インサイドは市川に任せ、スモールフォワードに自身の活路を見出して一気に開花、桜丘戦では初の檜舞台で3P6本を決める離れ業を見せた。2年生シューターは**良知宏大**。

県新人決勝リーグ3試合で44得点をマーク、まさに点取り屋の異名通りの選手で特に終盤勝負所での得点が目立つ。県新人・藤枝明誠戦では第4Qだけで12得点、先日の中部総体決勝でも第4Qだけで9得点、まさに苦しい時の救世主的な働きが目立つ。この個性派軍団をまとめるのが主将で司令塔、ゲームメイクも担う**鍋田隆征**。県新人決勝リーグ3試合で3P11本、東海新人2試合で4本、中部総体決勝では第4Qで3連続3Pを含む計4本を決めるなどチームに必要不可欠な存在である。鍋田の魅力はただやみくもに打つのではなく、ひたすら好機を待って的確を絞りながら長距離砲を放つことである。また東海新人2試合とも先発出場し勝負強さを発揮した**小川大新**なども成長著しい。チームの主力が3年生となり気力も戦力も充実、今大会を制し、全国ベスト8に入った平成12年・高山インターハイ以来19年ぶり3度目の全国出場を狙う。

浜松開誠館も西部総体を制し、昨年この大会わずかな得失点差でインハイ出場を逃し、さらに県新人でも4位に終わり東海新人をも逃した苦い思いを胸にこの大会へ臨む。全体が丸となって貪欲な執着心でゴールに向かう姿勢が印象的なチームであり、そのチームの中でも押しも押されもせぬ大黒柱は**今井田大輝**。常に落ち着いてプレーができる選手でチームメイトにも一目置かれる存在である。県新人決勝リーグでは3試合ともチーム最高得点を記録、合計3P16本を含む75得点をたたき出しスコアラーとしての重責を十分に果たした。これほど高確率で3Pが決まる選手は近年県内では見られなかったまさに「アウトサイドの魔術師」である。それほど逸材であると言っても過言ではない。1年時からキャリアを十分に積み重ねているだけにこの選手の存在が浜松開誠館の命運を握っているだろう。そのほかにも県新人決勝リーグで3P13本を決めるなどシューターとして立派に成長した**岡龍之介**、チーム最高身長189cm・**田中駿**、まさに「戦場」と化しているゴール下から必死にシュートを放つ**飯島友汰**、小柄ながらも果敢にゴール下までドライブし確実にシュートを決める**近田都和**、出場機会も増え得意なアウトサイドシュートが目立つようになってきた**宇野至音**など他チームに引けを取らない厚い選手層を誇る。コート上の選手がうまく連動し人もボールも動く機動力あふれるバスケットが展開できれば一気に初優勝、初の全国大会出場も見えてくるであろう。

上記4強を猛迫するのが西部総体準優勝の浜松学院と東部総体準優勝・星陵。**浜松学院**は県新人ブロック決勝で飛龍に敗れ、3大会では5年ぶりに4強進出を逃した。手堅いディフェンスが持ち味で、ドライブ・カットインともに一人の動きだけでは簡単に中に切り込ませない鉄壁の守りを誇る。司令塔の**後藤陸人**、冷静沈着に得点を稼ぐ**辺田涼介**、ゴール下の体を張ったプレーが信条の**中川賢人**、鋭いドライブが持ち味の**大庭颯馬**がチームを支える。ブロック決勝で対戦が予想される西部総体決勝の再現・浜松開誠館との戦いが大きな山場となるであろう。**星陵**は東部新人5位に終わったが、東部総体では沼津中央・加藤学園と強豪を連破し準優勝。第6シードとなり今大会の台風の目となることであろう。**佐野悠斗**、**佐野謙斗**、**中村楽斗**、**渡邊終**などが中学時代から同じチームでプレーしてきたのでチームワークも良くプレーも阿吽の呼吸、攻守にわたり非常にバランスが取れたチームである。ブロック

決勝で対戦が予想される静岡学園戦は全身全霊でぶつかって初の決勝リーグ進出を目指す。

その他、県新人7位、パスからゲームを作りそこから隙を見て中に切れ込みゴールをアシスト、ボールマンが困る前にパスの受け手が必ず出てくる意識の高いバスケットで西部総体でも浜松学院を苦しめた**浜松工業**、中部総体3位、192cmの長身を利して内外角どこでも器用にこなすマルチプレイヤー**田形一真**を擁する**清水東**、そして東部新人覇者、県新人7位、東部総体3位の**加藤学園**がまずは決勝リーグ進出、その先の東海総体出場を虎視眈々と狙う。

注目選手としては、**服部龍雅・鈴木真斗**（加藤学園）、**望月孝太郎・末永昂士**（三島北）、**小林優里・谷口海輝・小林亮介**（沼津中央）、**福本海成・山品なさにえる**（伊豆中央）、**木元杏児**（富士宮東）、**白井咲弥**（三島南）、**鈴木凌真**（下田）、**松田岳歩・横井颯大**（清水東）、**望月陽大・松本翼**（静岡商業）、**小坂成・永岡想**（静岡東）、**鈴木正宗・吉岡倫太郎**（静岡）、**中村泰樹・永石圭**（焼津中央）、**篠島奏杜・杉本航海**（島田工業）、**山本晃正**（静岡市立）、**花崎海**（清水西）、**大滝龍二・河村颯哉・山下晃汰**（浜松工業）、**高橋卓巳・石田翔大**（浜松湖東）、**小畑樹**（浜松商業）、**花田竜輔・黒田敏矢・玉木俊介**（浜松西）、**小笠吏規斗・天野佑哉**（浜松聖星）、**鈴木涼央**（磐田南）、**池田英二**（袋井商業）を挙げさせていきたい。

最後に今大会も男女を通じて唯一初出場となるのが**富岳館**。**田村魁利、藤田亮汰**を中心にチーム一丸となって県総体初出場を果たした。今年の県新人にも初出場、その時は初戦で焼津中央に惜敗したが、今回は東部6位での出場、今度こそ県大会初勝利に手が届くところまで来た。悲願の初勝利を目指し、全力で相手に立ち向かって行って欲しい。

【女子】

3年前のこの大会から県内負けなし、県高校三大大会9連覇中、県内高校相手に62連勝中の**浜松開誠館**が今回も他の追随を許さない大本命である。県新人も圧倒的な強さで優勝、続いて挑んだ東海新人では2回戦で前回覇者の宿敵・安城学園に勝利、準決勝ではウィンター覇者の岐阜女子に敗れたが、3位決定戦では名古屋女子大学に快勝、全国随一の激戦区・東海でも底知れぬ強さを見せてくれた。今大会でもこの常勝チームに対する他チームの包囲網は厚くなるばかりだが、これだけ勝ち続けても「勝って兜の緒を締める」チームの雰囲気にも慢心も油断も感じられない。チームの中心は**松岡木乃美**。1年時からの公式戦出場で得た貴重な経験を現在主将という立場からチームメイトにフィードバックしながらチームを牽引している。右からのドライブや刹那に振り返ってのジャンプシュートが得意な選手で、東海新人3試合で74点を獲得した。自ら率先して体を張ったプレーでチームを鼓舞し、手本となりながら仲間がいい刺激を与える模範的な面も持ち合わせる。気持ちで負けないタフなディフェンスも魅力で、粘り強く守って得意の速攻につなげていく攻撃の起点でもある。常に勝利が求められる厳しい重圧の中でも、攻守に抜群の働きを見せるエースが今大会でも期待にすぐわぬ活躍を見せてくれるだろう。右ひざの大怪我を昨年見事に克服、県新人・東海

新人すべてにスタメン出場して第一線に戻ってきた**大西莉央**の完全復活は浜松開誠館にとっては何よりも心強いことである。粘り強いディフェンスや飛び込みのリバウンド、鋭い切れ込みのドライブが得意で一年次から県選抜選手に選ばれるなどその実績の数は枚挙に暇がない。松岡と共にチームの要となり、さらなる飛躍が期待される選手である。インサイドを守る**山本涼菜**はウィンターの開志国際戦や桜花学園戦、東海新人の岐阜女子戦で県内では外国人留学生とのマッチアップを経験、一見するとミスマッチになってしまう可能性もあるなか、臆することなく果敢にリングヘシュートを放ち得点を量産してきた。そしてディフェンスでも常に面取りを意識し、シールして相手の攻撃糸口を封じる徹底した守備は自分より背の高い相手とマッチアップした際の教科書を見ているようである。県新人では時折3Pを放つ姿も見られ、まさに内外でバランスの取れた素晴らしい選手である。昨年のウィンターデビュー戦で15得点を挙げて注目された**黒川菜津美**は度胸良くかつ正確に放たれる3Pが持ち味。東海新人・安城学園戦でも決めた得点はすべて3P、途中出場ながら効果的に6本決めて勝利の立役者となった。今後は相手のマークも厳しくなり自由に打たせてもらえない場面もあるだろうが、好機を逃さず果敢にゴールを狙って欲しい。**塩澤小夏**は県新人決勝リーグでは途中出場だったが、東海新人では3試合すべてにスタメン出場、着々とチャンスを掴んできた。さらにプレイングタイムを増やし、得点に絡めるようになるとレギュラー定着も見えてくるだろう。その他にもジャンプシュートやスピードを生かした1on1が得意な**奈須梓咲**、東海新人3位決定戦で終盤に途中出場、鮮やかに連続シュートを決めた**中田絵美**、スピードあふれるドライブが魅力の**樋口沙彩**、そしてU-16日本代表にも選ばれ先月のニュージーランド遠征にも参加、得意とするドライブとジャンプシュートにさらに磨きがかかった**マッカラム杏菜**など戦力は全国の強豪と比べて全く遜色ない。この大会でも自分たちが追い求めるバスケットを貫き通し、大会4連覇、そして6度目のインハイ出場を果たしたい。

ストップ・ザ・浜松開誠館の一番手に挙げられるのは、県新人準優勝、そして中部総体も制した**常葉大常葉**であろう。昨年の県総体では準優勝、静岡県第2代表として3年ぶりにインハイ出場を果たした。しかしながら今年度のインハイ出場枠は「1」、優勝チームしか出場権が与えられないため、常葉としては是か非でも王者・浜松開誠館を倒し2年連続のインハイ出場を果たしたい。チームの要は昨年も県選抜選手として活躍した**山口郁実**。チームの得点源でもあり、県新人決勝リーグ3試合で脅威の94得点、特に浜松開誠館ではチーム総得点の7割強に相当する44得点を記録、ドライブ、3P、ミドルシュート、ディフェンスを引き付けてのアシストパスなど大活躍で孤軍奮闘をした。リバウンドからブレイクを出す初動が速く、相手ディフェンスが整う前にアウトナンバーを生かして得点に結びつけられるうまさを持っている。東海新人・皇學館戦でも30点、中部総体決勝・島田戦でも25得点をマーク、どんな試合でも安定して得点を積み重ねていけるプレーヤーでチームにとってはこれほど頼もしい選手はいない。山口と共にチームを支えるのは**林美弥子**。始動が速く、試合早々から躊躇なく得意の3Pを放ち、常時リードを保ちながら優位に試合を運んでいく常葉のスタイルを率先して実践する選手である。チームの窮地を救い、流れを劇的に変えるよ

うな3Pを数多く決めてチームに貢献してきた。山口と林の頑張りが常葉の賜杯奪還へのカギを握るであろう。その他にも、県・東海新人でも活躍し激しいトランジションにも持ち前のスピードで機敏に対応する**池田桃子**、怪我からの復調具合が気にかかるが出場機会があれば大きな戦力アップとなる**保坂悠月**、皇學館戦にスタメン出場し、ともに二桁得点を記録した2年生コンビ**山本光夏・本間海麗**、そして1年生ながら中部総体決勝にもスタメン出場、3P2本を含む18得点を記録した**市川凛香**など、1年生から3年生までバランスよく戦力として機能し、ここまで勝ち続けてきた。常に心掛けてきたチームワークの強化も徹底しており、手堅いディフェンスをした上で、リバウンド、3P、カッティングプレーで得点を量産し、4年ぶりの優勝そして23度目のインハイ出場を目指す。

常葉大常葉とともに打倒浜松開誠館を目指すのは中部総体準優勝・**島田**。昨年の県総体はベスト16、新チームで挑んだウィンター県予選は初のベスト8、聖地・県武道館のコートを踏んだ。その勢いで臨んだ県新人は初の決勝リーグ進出を果たしながらも最終戦・駿河総合との3位決定兼東海新人出場決定戦で力尽き4位に終わり、惜しくも地元開催の東海新人出場を逃した。しかしながらこのチームは大会の度に順位を上げており、中部総体準決勝では県新人で敗れた駿河総合に雪辱、中部2位で臨む今大会でも県新人以上の結果、すなわち3位以上・東海総体出場を最低ラインとして目標設定し大会に臨むであろう。何よりも昨年5月から現在のチームを新チームとして始動させており、他のチームよりも活動期間が長く、実戦経験が豊富なところもチームの強さの秘訣と言える。チームの中心は司令塔・**杉本ももか**とインサイドの**丸目陽**。杉本はドライブ、3P、リバウンド、ルーズボール、そしてゲームコントロールなどすべてをそつなくこなすまさにオールラウンドプレイヤー、一人で十分ゲームメイクできる選手である。ディフェンス面ではボールへのプレッシャーが厳しく、相手のパスを通らせないようディナイも欠かさない。相手の不用意なパスに対しては容赦なくスティールを仕掛けワンマン速攻に持ち込むスキのない選手である。得点力もあり中部総体決勝・常葉大常葉戦では21得点、攻撃の突破口でもある。166cm・インサイドの丸目は他チームのセンターと比べ身長が劣る分、スピードで対抗、コート狭しと精力的に走る姿が印象的である。当たり負けしないポストプレーや力強い1on1の仕掛けが巧みだけでなく、シールも基本に忠実でまさに相手の攻撃を「ふさぐ」お手本のようなディフェンスをする。その他にも厳しいディフェンスから攻撃のリズムを作る**鈴木美沙**、相手のヘルプディフェンス時に生じるわずかなスペースを見逃さずに絶妙なグッドパスを繰り出し得点の機会を与える**渡邊彩乃**など、初の東海総体出場に向けて「機は熟した」感がある。

その他の注目チームとして、東部総体覇者・市立沼津、西部総体準優勝・浜松学院、中部総体3位・静岡西、同じく4位の駿河総合を挙げたい。

市立沼津は東部1位で出場した県新人2回戦で東海大静岡翔洋にまさかの敗戦、仕切り直して臨んだ東部総体では見事優勝、新たなる決意で今大会に臨む。ミドルシュートが得意な**進藤いずみ**、司令塔・**西山沙希**、3Pを得意とする**滝口祐里**、チーム随一の実戦経験を持つ

齊藤汐海に加え、シューターやインサイドを守る有望な新入生も加わった。まずは2回戦で対戦が予想される西部新人3位、ゲームを通じてトップスピードで戦い続け運動力が落ちないだけのフィジカルを全員が持つ**浜松聖星**との戦いが上位進出への試金石となるであろう。

県新人7位の**浜松学院**は二枚看板のセンター陣である177cm県内最高身長・**早崎莉里香**と173cm・**足立玲那**のプレーに力強さが増し、インサイドに安定感が出てきた。加えて足立は3P、早崎はドライブなど幅広いプレーも見られるようになった。相手が意識をインサイドばかりに置くと外角から**金井凜莉**や**白井凜**が3Pやミドルを決める。特に白井はディフェンスの位置に応じてシュートとドライブを適切にセレクト出来る技術を持ち合わせる。安定した得点力を持つ**藤田亜未**や相手をかかわるのが上手い**金谷百々子**、長身170cm・キャリア抜群の**関百花**など多彩な戦力を擁し、まずは初の決勝リーグ進出を目指す。そのためにもブロック決勝で予想される県新人で敗れた島田との再戦が正念場となる。

県新人5位の**静岡西**は中部新人・県新人・中部総体で常葉大常葉に敗れたものの3試合すべてで常葉に肉薄、県新人でも5位決定トーナメントを勝ち切り今大会は第4シードで出場、初の決勝リーグ進出そしてその先の東海総体出場まで射程距離圏内にとらえてきた。左右どちらからでも抜群のドライブを見せる**菅原希美**・**岩野怜華**はきちんとコースを見極め十分なスペースコースを作ってから仕掛けが魅力。主将として抜群のリーダーシップを発揮しチームを掌握する**梶山来愛**、そして中部総体・3位決定戦では25得点、今やチームのスコアラーとして大活躍している**北條明星**など戦力は十分に揃っている。静岡西最大の魅力は非常に粘り強いこと。劣勢を強いられても必死に食らいつき絶対に離されないよう追いすがり、最後まで集中力を切らさない。負けた試合もすべて数点差以内に収めている。決勝リーグに行けば得失点が大きく影響することもあるのでどのチームも「粘り」が重要なカギとなる。まずはブロック決勝で予想される駿河総合との再戦に勝ち、初の決勝リーグに駒を進めたい。

県新人3位・東海新人にも出場した**駿河総合**は第5シードで今大会に臨む。やはりカギを握るのは、県新人決勝リーグ3試合で66得点、東海新人・四日市商業戦でも17得点、闘志あふれるプレーと3Pが持ち味である「小さな巨人」**鈴木美優**のシュート力と県内最高身長・177cm**加茂恵**や171cm**佐々木聖愛**など高さのあるセンター陣の頑張りであろう。他にもウイングからの1on1を随所に見せる**小原嘉佳**やリバウンド、ルーズボールなど球際の泥臭いプレーにも汗を流す**四電恵子**などいぶし銀の選手も多く抱える。県新人では中部新人で敗れた島田に競り勝って東海新人出場を決めた。今回も中部総体で敗れた静岡西とブロック決勝での対戦が予想される。駿河総合にとっても絶対に負けられない一戦となる。

注目選手としては、**石坂瑠海**・**益田空羽**（加藤学園）、**稲田凜**・**森山未愛**・**笹原遥奈**（沼津商業）、**阿部莉子**・**高橋呉波**・**渡邊七海**（飛龍）、**山田幸**（三島北）、**平松優希**（富士宮北）、**望月彩楓**・**服部満里奈**・**高田晴妃**（藤枝順心）、**杉村泉**・**川村菜摘**（東海大静岡翔洋）、**原川知裕**・**吉永芽生**（静岡東）、**清水万尋**（清水南）、**山寄優衣**（静岡市立）、**寺本小雪**・**天野由麻**・**平野未祐**（浜松聖星）、**大久保涼**・**花田明音**（浜松市立）、**金子愛**・**辻本茉衣華**・**酒井柚葉**・**鈴木茉実奈**（浜松商業）、**堀野仁海**（浜松日体）、**桑原花奈**（掛川東）、**竹内彩萌**（浜松東）、**鈴木亜子**・**田開理生**（西遠女子学園）を挙げさせていただきたい。